

# 学位論文の要旨

専攻 社会文化学専攻

学生番号 75426103

氏名 迫 こゆり 印

## 1 論文題目

在ブラジル日本人の異文化適応に関する探索的研究

## 2 論文の要旨

第1章では、本研究の背景と目的を示したのち、論文の構成を述べる。

海外生活は、大きな生活環境の変化によってメンタルヘルスを損ないやすい状態にある。ホスト国に適応するためには、異文化環境に柔軟に対応していくことが必要となる。ブラジルは、在外日本人総数が南米一位だが、在ブラジル(以下、在伯)日本人を対象とした心理学研究はわずかであり、分かっていることは少ない。

数少ない先行研究を挙げるとすれば、ブラジル文化と積極的に関わりながら母文化を維持するタイプが、安定して異文化に適応するとした棚原(1980)や、ブラジル生活における困難により、メンタルヘルスを損なった例を報告した迫(2015)の研究が見られる。これらからは、適応の難しさや異文化適応に望ましい態度は読み取れるものの、具体的な方法は示されていない。日本人長期滞在者が増加の一途にある昨今、さらなる研究が求められる。

本研究は、心理的と社会文化的の両側面からみた在伯日本人の異文化適応における要領を探索する。具体的には、ブラジル生活で困難を感じる体験とその対処について丁寧に聞き取り、適応に役立つ行動的、認知的なソーシャルスキルの抽出を試みることを目的とする。研究に先立って、まず筆者がブラジルを訪れ、在伯日本人を対象に以下の2つの調査を行った。一つ目は文化変容態度とうつ傾向に関する質問紙調査(調査1)、二つ目はブラジル生活での困難とその対処について聞き取った半構造化面接調査(調査2)である。そしてそれぞれ分析・考察を行った。

論文の構成は、第2章で調査1について諸外国での研究と比較しながら論じる。調査2については、第3,4章で属性別に論じる。なお調査対象者の語りを分析する中で、日系ブラジル(以下、日系)人が在伯日本人にとって独特な存在と考えられたため、第5章は、日系人との関係について焦点を当てて論じる。第6章では、これまでの章を総括し、適応に役立つソーシャルスキルをまとめる。そして本研究を見渡して、今後の課題について論じる。以下に各章の概要を述べていく。

第2章では、在伯日本人116名に質問紙調査をした結果から、文化変容態度とうつ傾向の関連について論じる。文化変容態度の統合は最もうつ傾向が低く、分離・周辺化はよりうつ傾向が高かった。統合タイプの適応が良好なのは、諸外国の研究結果と一致していた。ホスト志向の高さとうつ傾向の高さの間に有意な負の相関が見いだされ、ホストの社会と馴染む方が適応に有利と考えられた。

第3章では、在伯日本人留学生5名の、ブラジル生活での困難とその対処について論じる。彼らは渡伯当初、不安定な治安に困難を感じたが、滞在中に適応的な行動を学び、安心感を高めていた。ホストの異文化性には好感を持つが、価値観や習慣の違いはストレスになることがあった。日系人は、留学生活の支援源となっており、留学生にとって親しみと好意の対象であった。困難の対処は、馴化的・主張的・自律的・依頼的・気分転換的対処があることがわかった。

第4章では、在伯日本人の会社員や主婦ら15名の、ブラジル生活での困難とその対処を探索し、ソーシャルスキル抽出を試みた。彼らは在伯年数の長短や属性に関係なく、社会不安に関わる困難を感じていた。そのほかにホスト言語や英語の理解と習得の仕方、ホストの習慣・価値観の違い、子どもの安全と充実した生活の維持に困難を感じていた。対処は留学生のものとはほぼ重なるが、家族や、同胞と付き合うための対処が加わった。大きく分けて社会生活、対人、子育てのソーシャルスキルが抽出され、各々行動的、認知的スキルが見出された。

第5章では、在伯日本人と日系人との関係性について論じていく。在伯日本人は、日系人をブラジル生活の良き支援者とみなす一方で、付き合いがストレス源になることがあると理解しており、日系人の存在は両価的といえた。ブラジルと日本の二文化を持つ日系人の特質を理解し、付き合いの選択や距離の調節をすることで、ストレス源となる可能性を減らすことが出来ると考えられた。

第6章は、これまでの章を総括し、今後の課題について述べる。ソーシャルスキルは、第4章で示されたものに、第3章の留学生たちの困難への対処と第5章の日系人と良好な関係を保つための対処から抽出したソーシャルスキルを包括した。今回の研究においてブラジル滞在者における困難の実際を詳細にみたことにより、スキルが明確に示されたといえる。

ブラジルでは、ホスト社会に馴染むことが適応に有利だが、当該社会で安全に暮らすためにはサバイバルのスキルが必須であった。適応の支援源ともなる日系人と良好な関係を保つためには、彼らの二文化性に配慮する必要があった。これらはブラジルならではの異文化適応の要領と考えられた。今後はソーシャルスキルの事前教育および実践結果の追跡調査など、後続の研究が待たれる。

(注) 2,000字程度にまとめること。

# 学位論文の概要

専攻 社会文化学専攻

学生番号 75426103

氏名 迫 こゆり 印

## 1 論文題目

在ブラジル日本人の異文化適応に関する探索的研究

## 2 論文の概要

本研究は、在ブラジル日本人が異文化適応するための要領を探索した。具体的には、ブラジル生活で困難を感じる体験とその対処について丁寧に聞き取り、適応に役立つ行動的、認知的なソーシャルスキルの抽出を試みた。

まず、どのような文化変容態度が異文化適応に有利かを検討するため、うつ傾向との関連を調べた。その結果ホスト志向の高さとうつ傾向の高さの間に有意な負の相関が見いだされ、ホストの社会と馴染む方が有利と考えられた。

次にブラジル生活での困難と、その対処について詳しく聞き取った。困難は社会不安の影響が大きく、その他対人面・言語面の困難も語られた。日系ブラジル人は、ブラジルと日本という二文化を持つ存在と認識され、支援源にもストレス源にもなりえた。対処法は治安・安全対策が重視され、対人面では、ホストや同胞など相手に応じた付き合い方が必要とされていた。ソーシャルスキルは社会生活、対人、子育ての三種類に大別された。

(注) 400字程度にまとめること。